

個体群生態学会 第25回大会（京都）の報告

大串隆之（大会実行委員長）

個体群生態学会第25回大会は、2009年10月17日から18日までの2日間、京都の同志社大学寒梅館にて開催された。本大会では、大会企画シンポジウム「Linking genome to ecosystem(ゲノムと生態系を結ぶ)」をはじめとして、4件の公募シンポジウム（「共生系の新しい理解」、「性の進化と個体群」、「若き行動生態学徒の群集」、「地下から始まるボトムアップ栄養カスケード」）、および53件のポスター発表が行われた。

200名を越す多くの参加者を集めた前回の東京大会に比べて、果たしてどの程度の参加者が見込まれるか、やや不安な気持ちで年明けに実行委員会をスタートさせた。6月上旬にはホームページを立ち上げ受け付けを始めたが、しばらくは休眠状態に近いほどの低調な出だしだった。このため、前回に倣って、何度も全国規模のメーリングリストなどに大会の案内や企画を流したのがようやく功を奏したのか、締め切り間際には相当数の登録があり、最終的には136名（事前受付107名、当日受付29名）の参加者があった。また、ポスター発表の申し込みも締め切りを延して受付けたために、53件の応募があった。さらに、今回はじめて海外（ニュージーランド）からの一般参加者が2名いたことは、特筆に値しよう。東京大会ほどではないものの、地域性と本学会の規模を考えると、まずまずの盛況だったと言えるだろう。

昨年度から大会運営に対して学会からの援助が受けられなくなったので、いかに赤字を出さずに運営するかが大きな課題であった。幸いにも、同志社大学からは会場を無料で貸して頂き、さらに7万円の大会援助も頂いた。また、海外からの2名の招待講演者の旅費の援助は、京大生態研が参画しているグローバルCOE「生物の多様性と進化研究のための拠点形成」にお願いした。これによって、大会収支決算では図らずも103,682円の黒字となり、この残額は大会終了後、学会に寄付させて頂いた。

最後に、京都大会の屋台骨を支えていただいた大会実行委員会のメンバー諸氏、会場を快く使わせて頂いた同志社大学、招待講演者の旅費を援助して頂いた京都大学グローバルCOE「生物の多様性と進化研究のための拠点形成」に、大会実行委員会を代表して深く感謝したい。

- ・会期：2009年10月17日（土）・18日（日）
- ・会場：同志社大学寒梅館（京都市上京区）
- ・大会実行委員会：大串隆之、山内 淳、椿 宜高、武田博清、山村則男、藤崎憲治、曾田貞滋、西田隆義、近藤倫生、市岡孝朗、工藤洋、川崎廣吉、福井 眞

■大会企画シンポジウム（京都大学グローバルCOE「生物多様性と進化研究のための拠点形成」後援）

【S1】 Linking genome to ecosystem (ゲノムと生態系を結ぶ)

S1-01 Ecology, genetics, and evolution of species interactions

Marc Johnson (North Carolina State University)

S1-02 Linking evolution and community structure of herbivorous insects: a key role of induced plant responses

Shunsuke Utsumi (Kyoto University)

S1-03 Microbial function and diversity in the fluid of pitcher plants

Yayoi Takeuchi (Kyoto University) ・ Kentaro Shimizu (University of Zurich)

S1-04 Ecosystem consequences of genetic diversity

Jennifer Schweitzer (University of Tennessee)

S1-05 Interactions among plant, soil, and microbes: how microbial diversity and

function in soil govern ecosystem processes
Shinpei Yoshitake (Waseda University)

■公募シンポジウム

- 【S2】 共生系の新しい理解：分子および個体群の動態を考慮した理論および実験**
企画者：森光太郎(阪大・生命)・福井眞(京大・生態研センター)・細田一史(阪大・情報)
- S2-01 新規機能獲得を通じた細胞内共生の構築
福井眞(京大生態研センター)
- S2-02 原生動物テトラヒメナと大腸菌からなる初期細胞内共生の実験的構築に向けて
森光太郎(阪大院生命機能)
- S2-03 農薬分解菌の栄養共生関係の実験・理論研究
中岡慎治(東大数理)・勝山千恵・竹内康博・加藤憲二(静岡大)
- S2-04 2種の大腸菌変異株による人工栄養共生系で観察される適応的表現型変化
細田一史¹・鈴木真吾¹・柏木明子²・森光太郎³・山内義教³・城口泰典¹・四方哲也¹(¹阪大情報、²弘大農生、³阪大生命)
- 【S3】 性の進化と個体群：進化理論とフナ類の有性・無性型の共存系**
企画者：箱山洋(中央水産研究所)
- S3-01 性の進化：遺伝因子間の協調と対立
江副日出夫(大阪府立大)
- S3-02 フナ類の有性・無性型：有性・無性型の共存および無性型多型の維持のメカニズム
箱山洋(中央水研)
- 【S4】 若き行動生態学徒の群集 “How To Survive”**
企画者：宮竹貴久・中山慧(岡山大院・環境)
- S4-01 アメンボの卵寄生リスクに応じた産卵深度決定
平山寛之・粕谷英一(九大・理・生物)
- S4-02 対捕食者戦略と交尾戦略のトレードオフ
中山慧・宮竹貴久(岡大院・環境・進化生態)
- S4-03 カメムシの理不尽な交尾顛末と軍拡競走
日室千尋(岡大院・環境・昆虫生態)・藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- S4-04 性的対立が引き起こすアオモンイトトンボの雌における色彩多型の維持
高橋佑磨・渡辺守(筑波大院・生命環境)
- S4-05 亜社会性ツチカメムシの給餌投資における補償戦略
馬場成実(九大院・生防研)・弘中満太郎(浜松医大)・上野高敏(九大院・生防研)
- 【S5】 地下から始まるボトムアップ栄養カスケード：地上の節足動物に及ぼす土壤共生微生物の効果**
企画者：片山昇(京大・生態研センター)
- S5-01 アーバスキュラー菌根菌の多重共生が植物の被食防衛にもたらす多様性機能
西田貴明(三菱UFJ リサーチ&コンサルティング)
- S5-02 アーバスキュラー菌根菌が多栄養段階間の相互作用に与える影響

- 上田紘司(岩手大院・連合農)・安田弘法・俵谷圭太郎・村山秀樹・佐藤智・西澤隆・村山哲也・豊増知伸(山形大・農)
- S5-03 地上の植食性および捕食性節足動物に対する根粒菌の効果：群集レベルの解析
片山昇・張志キ・大串隆之(京大・生態学研究センター)
- S5-04 温帯および熱帯におけるAM菌の土壌接種が植物および節足動物の多様性創出に及ぼす影響
安田弘法・佐藤智・俵谷圭太郎・村山秀樹・西澤隆・村山哲也・豊増知伸(山形大・農)・エリープルノモ(LMU・農)・T アンディ・スハルディ・ウィジャクソノ・スプタ・ハンドヨ(UGM)

■ 秋の学校

- 入門 遺伝子から見た適応 講師：工藤洋(京大大学生態学研究センター)
入門 生態系ゲノミクス 講師：大串隆之(京大大学生態学研究センター)

■ ポスターセッション

- P1-01 Multi-scale analyses of spatial genetic structure of the gray-sided vole: inter-landmass, regional and local scales (齊藤隆 北海道大学フィールド科学センター)
- P1-02 アオモンイトトンボにおける雌の2型比の緯度クライン (高橋佑磨 筑波大院・生命環境)
- P1-03 疥癬がキツネ個体群に与える影響 -コホート解析による自然死亡率の推定- (浦口宏二 北海道立衛生研究所)
- P1-04 イースト菌培養における密度効果の研究：少子化パラドックスと細胞消滅 (倉知宏憲 静岡大学工学研究科システム工学専攻)
- P1-05 笹の一斉枯死前後の笹食蝶類の個体群動態 (井出純哉 京都大学大学院理学研究科動物生態)
- P1-06 ハマダラカの生活史にもとづく地理的分布評価の試み (柏田百代 早稲田大学人間科学研究科)
- P1-07 空から見たサギ群集の長期個体群変動 (益子美由希 筑波大学大学院 生命共存科学専攻)
- P1-08 三宅島におけるシロダモタマバエ個体群の衰亡 (徳田誠 理化学研究所・植物科学研究センター)
- P1-09 異種間の性的な干渉はマメゾウムシの種間競争の結果を決定するか？ (京極大助 京都大学農学部昆虫生態学研究室)
- P1-10 低温下におけるエゾヤチネズミの免疫機能に対する日長と集団の効果(楠本華織 北大院農学研究科)
- P1-11 ゼンマイハバチのメタ個体群の構造とその経時変化 (大塚公雄 京都大学農学研究科応用生物科学専攻昆虫生態学分野)
- P1-12 在来タンポポと外来タンポポの攻防：花粉干渉の効き方が結果を決める(西田隆義 京大昆虫生態)
- P1-13 ヤマビルのトラップ開発のための行動生態学的研究 (小泉紀彰 東京大学農学部森林生物科学科)
- P1-14 ヒメボタルの異なるスケールにおける分布状況と標識再捕獲法による個体群パラメータの推定 (梯公平 東大農学生命科学研究科生圏システム学専攻)
- P1-15 農地景観におけるマルハナバチの個体群動態：トラップとDNA分析から推定したコロニーの密度と成長 (永光輝義 森林総研)
- P1-16 Weta and fruit colour selection (Nik Fadzly School of Biological Sciences, Victoria University of Wellington, New Zealand)

- P2-01 パナマの毒ガエルの体色分化を説明する量的遺伝モデル：配偶者選択はランダムドリフトを強化するか？ (巖佐庸 九州大学大学院理学研究院生物科学部門)
- P2-02 アブラムシが誘導するダイズの母性効果が次世代のダイズ上のアブラムシのコロニー成長に影響する (片山昇 京大大学生態学研究センター)
- P2-03 アメンボの潜水産卵におけるオスの寄与 (平山寛之 九州大学理学部生物科学専攻生態科学研究室)
- P2-04 ナミテントウ個体群における飛翔能力の遺伝的変異 (世古智一 近畿中国四国農業研究センター)
- P2-05 チャバネアオカメムシにおける腸内共生細菌の個体間多型 (細川貴弘 産業技術総合研究所・ゲノムファクトリー研究部門)
- P2-06 休眠によるオスへのコストがメスの繁殖形質に与える負の影響 (定清奨 大阪府立大学理学系研究科生物科学専攻)
- P2-07 齢と交尾経験がアカスジカスミカメ雌成虫の性誘引フェロモン保持量に及ぼす影響 (奥圭子 (独) 農研機構中央農業総合研究センター)
- P2-08 アズキゾウムシの発育、生存および繁殖における近交弱勢 (原野智広 九州大学大学院理学研究院生物科学部門生態科学研究室)
- P2-09 ホオズキカメムシが行う食草外産卵は天敵回避戦略か？ (中嶋祐二 京都大学大学院農学研究科昆虫生態学研究室)
- P2-10 ハラヒシバツタの隠蔽多型を維持する要因は何か？分断色によるオーバーヒートのリスク (鶴井香織 京都大学農学研究科応用生物科学専攻昆虫生態学研究室)
- P2-11 個体数増加に伴うグルーミング行動の変化 (奥野正樹 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻昆虫生態学研究室)
- P2-12 スペシャリスト捕食者クリサキテントウにおける寄主特殊化メカニズム (鈴木紀之 京大院・農・昆虫生態)
- P2-13 アリは賢い牧畜者～ヒゲナガケアリによる複数種アブラムシへの卵保護の手厚さの比較～ (矢代敏久 岡大院・環境・昆虫生態)
- P2-14 真社会性アブラムシの兵隊サイズは防衛力に影響する (服部充 信州大学理学部生物科学科)
- P3-01 繁殖干渉と塩分ストレス耐性が決めるオナモミ属2種の地理的分布 (高倉耕一 大阪市立環境科学研究所)
- P3-02 群集内における密度依存的な競争がもたらす多様性-撓乱パターン (森照貴 北大・環境科学院)
- P3-03 捕食者と被食者の脳サイズ:277種の魚における623ペアの捕食-被食関係の解析 (近藤倫生 龍谷大学理工学部・JSTさきがけ)
- P3-04 生態系動態を制御する植物形質と土壤微生物群集の相互作用 (潮雅之 京大大学生態学研究センター)
- P3-05 サンショウウオの共食いは捕食者がいないとき加速する (岸田治 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター天塩研究林)
- P3-06 How do aphids change leaf and litter traits of soybean and soil nutrients? (Alessandro Oliveira Silva 京大大学生態学研究センター)
- P3-07 土壤表面に落下した植食性昆虫の糞が生態系プロセスに果たす役割 (加賀田秀樹 京大大学生態学研究センター)
- P3-08 生態ネットワークの脆弱性と頑健性 (佐藤一憲 静岡大学工学部システム工学科)
- P3-09 資源の量とタイプが樹液食ケシキスイ群集に及ぼす影響 (吉本治一郎 京都大学地球環境学学)
- P3-10 導入昆虫の生存と繁殖に及ぼす外来植物上で生じる間接効果 (三浦和美 京大大学生態学研究センター)
- P3-11 岩礁潮間帯の固着生物群集における種多様性-生態系機能関係 (深谷肇一 北海

- 道大学大学院環境科学院)
- P3-12 Ambrosia beetle guild attacking deciduous oak trees (*Quercus serrata*) in relation to tree vigor, seasonality, and JOW incidences (Sunisa Sanguansub 東京大学)
- P3-13 Can Anisops predators (Backswimmer) reducing the population abundance of New Zealand mosquito? (Wan Fatma Zuharah School of Biological Sciences, Victoria University of Wellington, New Zealand)
- P4-01 A basic equation for population dynamics with destruction of breeding habitats and its application to outbreak of KHV disease (山村則男 総合地球環境学研究所)
- P4-02 ハクセンシオマネキの左右性の遺伝システムのモデル (小林美苑 奈良女大院人間文化研究科情報科学専攻)
- P4-03 一般化線形モデル (GLM) における検定は説明変数の分布に影響される(粕谷英一 九州大学理学部生物学教室)
- P4-04 ママエビの左右性の遺伝システムのモデル (矢田真善美 奈良女子大学大学院人間文化研究科情報科学専攻)
- P4-05 スクミリングガイの性比のモデル (行藤瞳 奈良女子大学大学院人間文化研究科情報科学専攻)
- P4-06 漁獲量は「観測データ」として使えるのか：サメガレイ個体群の階層ベイズモデリング (奥田武弘 水産総合研究センター東北区水産研究所)
- P4-07 投資様式の違いが母親の性配分戦略に与える影響 (川津一隆 京大院・農・昆虫生態)
- P4-08 フラクタルに似た成長をする生物の多種共存について (木村勇輝 静岡大学大学院工学研究科システム工学専攻吉村研究室)
- P4-09 個体間の競争と個体の空間分布からみた様々な個体群モデルの関係 (穴澤正宏 東北工業大学工学部環境情報工学科)
- P4-10 鳥類育児寄生者のホスト乗換え仮説に関する数理的な研究 (川添のぞみ 奈良女子大学大学院人間文化研究科)

■大会収支決算

収入	数量	金額
大会参加費	122 名	¥647, 500
懇親会費	86 名	¥380, 500
書籍展示	3 社	¥15, 000
同志社大学より補助金		¥70, 000
収入総計		¥1, 113, 000

支出	数量	金額
講演要旨集	200 部	¥129, 570
ポスター印刷・郵送費	100 枚	¥34, 230
アルバイト	22 名(延べ)	¥169, 000
受付など事務関連費		¥41, 198
懇親会費		¥477, 750
大会運営費		¥157, 570
支出総計		¥1, 009, 318
残額		¥103, 682